

事実ば次の通りである

一九六九年 五月二〇日 告訴理由書

砂川反戦塹壕共闘会議

★ 5月12日午後3時頃、C100ハーキ
ユリス機は6回の連続的飛行の
のち、7回目の着陸の際、我々の
「反戦機」をわざと切斷したのだ。
★ C100ハーキ機は何の不安
感もなく、平常通り着陸、しかも
滑走路の約半分の位置で停止した。
★ 立川署は待ち構えていたよう
に「基地内」からきて、着陸灯の破
損がラス川片を拾い「現場検証」
と称する活動をした。

★ 「立川から基地をなくす市民
の会」は、同日午後9時30分立川署
へ、米軍パイロットを器物損壊罪
で告訴した。

★ 13日午後3時頃、反戦機をとり
除く法的根拠はない。地元と緊急
話し合い。それまで地主にも催
発的発言をさし控える」と防犯施
設庁立川出張所鈴木施設課長約束。
★ 今日午後4時すぎ、誰から依頼
をうけたわけでもない、警察独自の
判断で立川署長は警視庁公安部
長と共に、航空法138条を口実に
住民に暴行・脅迫を加えつつ、反
戦機・反戦十字架など30数台を強
奪し去ったのだ。

航空法138条適用の違法性

- ① 「航空の危険」などまったく
生じていない（自分着陸灯のガ
ラスを破しただけ）
- ② 「6回もの飛行」と「滑走路
中央で停止する意識的低空飛行」
という被害者であるにもか、わらず
（被害者を出していきなり加害者と
逆転させた、警察独自の判断）
- ③ ④ 日本の国内法を遵守する義
務を負わない米軍用機に、航空法
138条適用はできない。
- ⑤ ⑥ 明らかに米軍用機が138条
「航空の安全」に含まれるとして
も「航空法49条へ障害物規定」が
米軍基地に適用されないことは明ら
かだから、旗ざお、ヤグラ、供養
塔など、違法となる余地はない。

（合法的に建てられた建物に自動
車がぶつかって、甚大な損害が生じた
とする。その責任は自動車側自身に
あるのは子供でも判る。法的に合法
な権利が加害者であるという理窟は
成立しない）

⑥ 警視庁公安部長・立川署長の
「独自の判断」とは、右の如く法的
にも常識的にも全く説明のつかない
「政治的弾圧」にほかならない。

岡大斗争の中から—— 自己を乗り越えて 自己への自立を

（講師）坂本守信

全共斗の五項目要求は、大学の自
己告発の要求である。教官につまづ
けられた自己告発の要求である。そ
れは又「学生」にもはねかえるもの
だ。だが自己告発とは何を意味する
か。自己を告発してどうしようと思
うのか。一体告発されている自己と
は何なのか。それはまさに「個性」
自らの内の人（人間）に疎外を強要して
きた自己である。

現代資本主義社会構造の中にくみ
こまれていく自らの身分のみを拒否
していくことによつて現体制を崩壊
せしめようとしても不可能である。
支配権力を支えているのは、すべて
の人間の内に入りこんだ既成概念で
あるからだ。私は「身分」としての
X X X と仲間（既成概念）としての
X X X との一体化した自己を、内な
る「力」と呼ぶ。

告発するべきはまさにこの「内なる
力」としての自己である。そして
この自己を告発していくことは一支配
権力をも告発していく事になるの
だ。では如何にして？ それはま
さにへ表現Vによる他はない。いや
新たなへ表現Vこそが自己告発なの
だ。

！ここに於てへ破壊Vはへ創造Vと
同義語となる。そしてこれこそがい

ま最も希求されるものなのだ。

今支配権力のさまざまなおどしに
おびえ、あるいは居直った「内なる
力」としての自己Vが、「正統化」
を叫んでいる。そして話し合い路
線なるものを打ち出した。この路線
の確立は八五項目要求Vをつまづけ
てきたものを相手にしないところ
にある。自己を告発しない当局（教官）
と自己を告発しない学生との間に、
五項目要求の本質に迫るどのような
話し合いがなされ得るか。

この段階で行われようとしてい
る「正統化」なるものは、まさに五
項目要求を圧殺してゆくものに外な
らない。内なる力としての自己に
よる、個性の圧殺である。

私はこのような「正統化」という
名の下の行われようとしている「人間
（自立への希求）の尊厳への侵害」
に對して強く抗議すると共に、これ
に加担することと現段階で試験、授
業を行うこととを拒否する。

私は岡山大学が自らの欺瞞性、権
力性を告発し、自立への道にのみ出
すことのない限り、正統化と呼ばれ
るどのようなものもへ正統化」とは
認めないし、そのような正統化を
拒否していく事においてへ正統化V
を求めてゆくであろう。（五月三日・五
月四日・五月五日・五月六日・五月七日・五月八日・五月九日・五月十日・五月十一日・五月十二日・五月十三日・五月十四日・五月十五日・五月十六日・五月十七日・五月十八日・五月十九日・五月二十日・五月二十一日・五月二十二日・五月二十三日・五月二十四日・五月二十五日・五月二十六日・五月二十七日・五月二十八日・五月二十九日・五月三十日・五月三十一日・六月一日・六月二日・六月三日・六月四日・六月五日・六月六日・六月七日・六月八日・六月九日・六月十日・六月十一日・六月十二日・六月十三日・六月十四日・六月十五日・六月十六日・六月十七日・六月十八日・六月十九日・六月二十日・六月二十一日・六月二十二日・六月二十三日・六月二十四日・六月二十五日・六月二十六日・六月二十七日・六月二十八日・六月二十九日・六月三十日・六月三十一日・七月一日・七月二日・七月三日・七月四日・七月五日・七月六日・七月七日・七月八日・七月九日・七月十日・七月十一日・七月十二日・七月十三日・七月十四日・七月十五日・七月十六日・七月十七日・七月十八日・七月十九日・七月二十日・七月二十一日・七月二十二日・七月二十三日・七月二十四日・七月二十五日・七月二十六日・七月二十七日・七月二十八日・七月二十九日・七月三十日・七月三十一日・八月一日・八月二日・八月三日・八月四日・八月五日・八月六日・八月七日・八月八日・八月九日・八月十日・八月十一日・八月十二日・八月十三日・八月十四日・八月十五日・八月十六日・八月十七日・八月十八日・八月十九日・八月二十日・八月二十一日・八月二十二日・八月二十三日・八月二十四日・八月二十五日・八月二十六日・八月二十七日・八月二十八日・八月二十九日・八月三十日・八月三十一日・九月一日・九月二日・九月三日・九月四日・九月五日・九月六日・九月七日・九月八日・九月九日・九月十日・九月十一日・九月十二日・九月十三日・九月十四日・九月十五日・九月十六日・九月十七日・九月十八日・九月十九日・九月二十日・九月二十一日・九月二十二日・九月二十三日・九月二十四日・九月二十五日・九月二十六日・九月二十七日・九月二十八日・九月二十九日・九月三十日・九月三十一日・十月一日・十月二日・十月三日・十月四日・十月五日・十月六日・十月七日・十月八日・十月九日・十月十日・十月十一日・十月十二日・十月十三日・十月十四日・十月十五日・十月十六日・十月十七日・十月十八日・十月十九日・十月二十日・十月二十一日・十月二十二日・十月二十三日・十月二十四日・十月二十五日・十月二十六日・十月二十七日・十月二十八日・十月二十九日・十月三十日・十月三十一日・十一月一日・十一月二日・十一月三日・十一月四日・十一月五日・十一月六日・十一月七日・十一月八日・十一月九日・十一月十日・十一月十一日・十一月十二日・十一月十三日・十一月十四日・十一月十五日・十一月十六日・十一月十七日・十一月十八日・十一月十九日・十一月二十日・十一月二十一日・十一月二十二日・十一月二十三日・十一月二十四日・十一月二十五日・十一月二十六日・十一月二十七日・十一月二十八日・十一月二十九日・十一月三十日・十一月三十一日・十二月一日・十二月二日・十二月三日・十二月四日・十二月五日・十二月六日・十二月七日・十二月八日・十二月九日・十二月十日・十二月十一日・十二月十二日・十二月十三日・十二月十四日・十二月十五日・十二月十六日・十二月十七日・十二月十八日・十二月十九日・十二月二十日・十二月二十一日・十二月二十二日・十二月二十三日・十二月二十四日・十二月二十五日・十二月二十六日・十二月二十七日・十二月二十八日・十二月二十九日・十二月三十日・十二月三十一日）

★岡大全共斗へ支援を！

岡大斗争は昨年9月、共闘隊の構内
乱入に抗議して全共斗が結成され無
期限バリケード全学ストが100日を越
えていく。4月12日早朝、大学が学
生課長暴行事件で学生15名を告発に
より、武装共闘隊500名が出動、学生
の暴力抵抗で、一名の共闘隊員が死
した。以来、政府・警察、マスコミ
一体となつて全共斗攻撃は激しい。
4月12日現場にいなかつた3名を
誤認逮捕するなど、活動家30数名の
令状をとり、殺人事件として15名の
学生が逮捕されるなかで、児玉克子
さんへ医学部全共闘議長はじめ、死
どが黙番で斗っている。一方斗争の
中で何ひとつしなかつた民衆は、大
学当局との協調路線をうち出し、右
翼体育会系学生と協力して、スト破
りとして動き出した。

共闘隊員の死は果して殺人事件か。
殺人だとしても、誰の責任か。死の
を陰にひく学生の側になかつたか。

ルポ ロンドンのメーデー

イギリスには、メーデーはない。福祉国家イギリスは労働者にストライキ権を許していないのだ。『反組合法』などというふざけた法律までがのさばっている。

そんななかで、こゝしはアナキスト・トロツキスト・毛沢東派などの間で「ロンドン・メーデー」を自発的にやるものがつくられ、それぞれの新聞紙、街頭ビラ等によつて、メーデーの意義や、スト権は人権だ、といったアピールが訴えられ、さかんに宣伝活動が行われていた。

場末の居酒屋での話でも、このところメーデーの事で占められ、『パトロン』のヤツ・オレを叩きつけて注意したが、今年には会社を休んで一人でメーデーに行くぞ、という声ばかりきこえたり、友人たちも「今年のメーデーは少しましになりそうだな」と語つたものである。

5月1日当日「ロンドン・メーデー」委員主催の大会は、ロンドン東部、英アナキズム運動のセンター「フリーダム・プレス」事務所に近いタワーズ・ヒル駅前公園で1時半頃からはじまつた。へぼくはこゝへ来る前に、トラファルガー・スクエアとハイドパークのスピーカーズ・コーナーまで行つた。というのはタワーズ・ヒルのメーデー以外に、労働党と今下組や共産党系の集会もあるだろうと考へ、可能性のなつとも多い其処へ出かけてみたのだ。そこはロンドンで行われる殆ど全てのデモの出発、到着点に違はれるところであり、長く知られるように、しゃべりた者が自由に討論する場所である。しかしその日は観光客以外だれも見当らず、街はウィークデとかわりなく、日曜日のような閑散ささえなかつた。

タワーズ・ヒルへ向う途中の地下鉄は駅から旗をもつて乗りこんでくる青年など、たしかにメーデーらしいものがあった。ビラがまかれ、キンキン威風の高いマイクが鳴り、新聞紙がうられ、とりどりの旗がながびいていた。

ひいき目ではなく、里旗あるいは赤と黒の二色旗は半数を占めてい

た。その他は赤い旗とハンマーの中に4と書きこんだ4トロツキ学生グループ、うす青色のシチエア・シヨニスト、その他統一派の連中などが思い思いに演説している。うるさいっただけだ。と突然、讃美歌風の歌がきこえてきた。オルガンを囲んで直立不動のおじさん達の頭上の横幕には「カソリック・ワーカー」とある。よくもこれだけいろいろなグループがあるもんだと感心したが、とうとう見かけなかつたのは、政府と労働党系・共産党系、それと毛沢東派だつた。

労働者らしい労働者がいないメーデーというのはイギリスならではの風景だろう。へぼくのみどころ、里旗をもつて参加していた港産労働者と石炭坑夫のこの二取巻とフォードなどの自動車部向がイギリスではアナキスト・シカリズムが強い以外に学生あるいはヒッピーのような連中だつた。

こんな調子だからメーデー・スローガンもすくなく低調、ノストは労働者の人権、『反組合法』に抵抗しよう、というのが一番よく目についた。

デモ行進は、前後を警察にはさまれ、人通りのない道へ完全に誘導された。なから、グリーン・パークまでの3キロの道をノロノロと出発した。

おどろいたことにはデモの先頭にメーデー委員が催つたバンドが、警官の夏服のような制服をきてジャズ風の行進曲を演奏し、トラックに乗り込んだ美女が奇声を発して腰をふるという演出。旗を持ちながら奇妙な足どりをする奴もでてきて、デモというよりマーチである。

約一五〇のほど集つたうち、行進に参加したのは千人ほどだろう。ビラをまき、歩道を行く人へ、グリーン・パーク集会参加をよびかける。時ならぬバンドに怒から首を出して主婦や労働者が、無関心に見物している。とマイクをもつた若いリーダーが何やら高飛車に怒鳴りつけてくる。労働者がどなりかえす。5分も10分もつづき、結局リーダーは労働者に怪むつされ切つてその場を去る。グリーン・パークへつく。大きな森の感じ。その片隅にメーデー行進がつくと、左二部のプロケラム、メーデー・フェスティバル、歌と踊りと音楽の祭典とか。とても付き合えたものじゃないので、へぼくはそこから帰路についた。かえり路、フリー

ダム・プレスで知り合つたおばちゃんに話す。「今年のメーデーは成功した」と大喜びである。これが成功なら去年までは一体どうなつてたのか、イギリス労働運動後退の一面をまざまざとみえたもいである。

イギリス労働運動の後退性は、正しく云えば「労働党政権による労働運動の去勢」である。フランス五月革命で「ラッパ」かりしているとドゴールが君の左側を追い越すと云われたが、改良主義や不確かな左翼の姿勢は、福祉国家政権「ヨーロッパの多くの国はおかれ少なかれ新保守主義として、この形に近づいている」によつて、体制内にとりまかれてしまうことである。

このことをもうすこし詳しくみると、改良主義は賃金斗争及び條件斗争であり、このような物賃的諸要求斗争は、少数化するレンヤン・プロレタリアートの窮乏化を除いて、マスとしての労働者の物質的充足を、資本との相対において保障しうる福祉国家の現実化によつて、革命的要素は全く欠落せざるをえなくなるのである。

また「不確かな左翼的姿勢」と云うのも、かつ一八九九年、アメリカ経済恐慌から救つたフーバー大統領の福祉政策に忠誠をこらされ、進歩的政府に忠誠をつくすことでアメリカ労働者階級を救ふと妄想したのは、姿勢だけが左翼主義であつたインテリゲンチアであつた。それと同じ現象が今日のイギリスに云えるだろう。

さらにイギリス労働者階級は自らが進んだ政党が天下をとつていくという見返りに、貧困を政策に忠従をしいられている。労働党と組合の関係は夫婦の関係と云われ、皆をつけたシヤム双生児のようなものだ。組合員は忠貞という結びつきのため、党をたてることによつて自らの階級性のすべてを犠牲にしている。ストライキ権も人権もやつてしまつて賢々と働いているのである。

へぼくにとつての初参加のロンドンのメーデーは、まさにその意味で「反面教師」であつた。

投稿募集 原則として五〇ハの字位
×切。毎月末前後

田川良夫

① いま、解放区というものはありうるか。街頭や学園のバリケードの中にあるのか、皆の中の非日常的な世界がそれか。

現状況において、一時的にせよ解放区は、場としてありえない。それは肉鎖された非常世界には成立せず、それは不定型に、場としてなく、それゆえあらゆる場、日常的な世界の中に、人間関係の仕方の中に、行動の様式の中にこそある。

② 味方がゆれ動くごとく、敵
もまたゆれ動く。自己自身の中に
は味方があり、また敵も存在する
からである。敵を味方にするに
するには、まず敵をよく知らねば
ならず、知るより前に断定しては
ならず、敵と味方とを峻別し固定
して考へてはならない。

自己の中の敵は自己を対象化し、自己を絶対化しないことによつてあきらかとなる。自己は革命の主体であると同時に、革命の対象なのだから、自己の絶対化は、あらたな敵をつくり、味方を敵へ追いつめ、ついには敵の中の味方の要素を引出しえないこととなる。

組織論 一全共斗一

全共斗の意義は「直接行動」を組織したものとしてあるだろう。即ち、斗う主体（行動主体）が行動の決定を行うのであり、行動をくしては（決定に参加しようとする者）を拒否する組織形態である。それゆゑ全共斗は組織としてののみならず運動として存在するのであり、遂に運動なくして組織たりえないのである。

全共斗はポツダム自治会のような全員加盟を前提としていないために、全体の意志を代表していかのうに理解されがちだが、組織形態から云えることは、行動に参加しない―自己の意志を表現しようとしなない自由症患者―を拒否する、が、そうでない限りあらゆる人々を受容れる、受容れざるをえない組織形態であり、外に附かれた組織なのである。

意志表現者——行動者の集合として
の全共平は、ポツタム自治会の「民
主主義のヒエラルヒー」に比べてか
やつて民主的である。

自今が行動せずして評論家をきめ
 こみ、採決には参加するような人内
 を、全共平は許さない。

ほく達の組織は：

現在の左翼組織論はいわゆる前代

現在の左翼組織論はいわゆる前代党論に結晶している。それはレーニンによつて樹立され、スターリンで定式化された。レーニンは大衆の中へ意識性を注入する革命指導者の組織、前代党の必要性を力説し、上級下級間の指導被指導關係、小數の多數への服従を否定するものは貴族的無政府主義だ、と云つてマルクスの「社会主義は人民大衆の経験と斗争の所産」という唯物論的觀念を求むと放擲する。彼は「社会主義の教義は、持つて階級の教育ある代表、知識人によつて豫められた哲學的、経済的理論から生れる」と云つてマルクス・エンゲルスも、社会的立場から云つてブルジョア知識人であつた。云として完全に武装された革命理論が指導者たちの頭腦から出て、直上から下部へとおろされていくことを想像したのである。それは「下から上へ」とあげる反対の觀念を「アナキスト的」とけなし、アナキズムへ到達することになる民主主義に反対して、中央集権主義、官僚主義をばつきりと選んだ。ローザルクセンブルグは、冷酷な規律の散らしを強いるために、プロレタリアートには一種のマゾヒスト的感覚があるといひ、レーニンもまた、ロシア帝政下にブルジョアジーがプロレタリアートに叩き込んだ工場と兵營の規律をへブルジョアジの權威から中央委員會の權威に代へ、そのまま活用した。このようにして彼らの組織論はもはやあきらかである。

僕らは、關係をもつた人間のすべ
てが、自分の意志においてハバ平遇
Vの名を語ればよいのであり、自分
が委員長だと思へば委員長である。
ほくらにおける一致点とは何か、
という事が問題になつた。反权力・
化工をよくする為、自分自身を奪還
するため、等々をはつきりさせる必
要があると云つたが、そんな必要は
ない。一致点を創ることは、とりも

なおよさず不一致をつくり出すことである。一つのパターンを創つて、人間の感性の放出をじやまするものにほかならない。……

ぼくらは「革命主義」を拒否しよう。革命はつくられるものではないから。革命はぜいたく品でもなければ一技術でもない。革命とは、人民の対話かも知れや不可能である時、対話を継続するものである。

暴力・非暴力

(Ju
Ju
NO 2 仕工へ平連発行より)

現状における「暴力斗争」と「暴力」直接行動とは、本質的には同じものである。非暴力も直接行動であるかギリクカクであつて無抵抗主義なのではない。いわゆる暴力主義の主張も「力の暴力に対して最も効果的」と考へる方法へとしての暴力で「斗う」ということだとすれば、非暴力が「力」だという認識さえなければ共通点に立つ。

民衆の眞の力は、まさに生産臭に
おける斗いにあらわれる。これを暴
力主義者も否認しないだろう。そこ
において斗われる非暴力直接行動は
生産の管理の斗いへ非暴力プラス・
生産管理を補完するものとしての武
斗である。

武装斗争オンリー・又は優先では
なく、それは付録でしかない。テロ
ルは革命の主役でなく付随物でしか
ない。

非暴力について「里の手帖」6月号で大沢氏は若干批判的だが、そこには非暴力の無抵抗という概念の影射が根強くのこっている。また西のアナキスト行動戦線のパンフ「アナキズム再生のために」の暴力直接行動論は、革命期における「内光」という背叛社の肉感的実存主義の追隨にほかならないと思う。それは強度に凝縮されたオナニーであり自己満足である。ニヒルやダダはそれが個人をはなれて実践されるとき、しばしば権力主義と同質の非人間的なものとなってしまう。ほくはあくまでも非暴力直接行動主義である。

社告。6月27日午後6時頃
自由連合5号 公南編集会誌

といつても、今迄の自由を批判しつゝ、雨の二三の原稿を検討し、からい雑談することになるでしよう。場所？、向井、向合のこゝろ大阪市内です！誰でもせひ。

談話室2

自由に発言して下さい

新聞社を包囲攻撃せよ

KOU

★いま、ぼくらを抑圧する体制のもつとも前景にははつきり硬軟二つの姿が出てきている。なうまでもなく、警察とマスコミだ。と云えば「その通り」と誰もがいづちをうつつが、後者に對して、ぼくらはどれだけの意志表示をやつてきたか！

★明治以降の政治史をみても、市民の立ち上りは、必ず「御用新聞社」を包囲し、うちこめすという事件がともなつてゐる。

★七〇年アンポにむけて新聞の役割は、「民衆の直接行動化」への敵対しを露骨にするだろう。

★この町には基地も軍需工場もなくどうも目標が……となうとき、たいていに「新聞社・放送局」へその支局をも含めてしを攻撃目標に設定せよ！彼らが中立と称してゲバ棒を批准するとき、なぜ機動隊の暴力を怯えないうか、を問ふ！

★日常から記事をスクラップし一たん機会を見たらならば、デモでもつて建物を包囲し、責任者を追及し、不買のビラをはり、それ自身の本質と仮面をバケロ攻撃せよ。

市民運動と

デーモンのさけびと

S.K.

多くの市民運動が、善・正義・良心などの名のもとに行われている。しかし今、わたしはそれらの粹や基準に對して、「善悪を超えた彼岸」「価値基準を失つた精神」を対峙させてみたい。というより良心や正義の奥にある……あるいはそれとほんの紙一重のところにある暗黒「デーモン」のさけびというか、それをも含めた精神の二重構造を、思ひながつてみたいのだ。

一面において、呪詛をよぶおすようなうめきを運動の出發点にすえおくこと。とかく人道主義や正義・良心によつて支配され指導されてきた市民運動に、悪い汚点をしるすことが、いまこそ必要ではないだろうか。

お願い。自由連合を讀了後は、

保護したり又は捨てたりせず、友人にまわして下さい。本部発行が二部発行になります。

大学を都市のアゴニに……

S.Y

人民集会縁起

無党派の運動の重要な視座としてワン・イシュー・ムーヴメントということがある。一つの重要な争点を取り上げて態度を明らかにし、それに賛成するあらゆる人々（可能性として）が力し運動をすすめるという意味だ。原水禁も、六〇年安保からの「声をきこえ」、五五年北爆開始からの「平和連」も、一争点運動をその原理としてきた。ところで重要なことは、この一争点運動には技術的にむずかしい点があり、しばしばうまく行かない。一つは争点がいまいになつてくること。一つは別の重要な争点が登場して、運動の目指す争点の影がうすくなることである。そこで争点が二つになつたり、または移つてしまつて、運動の目指す争点の影がうすくなることである。そこで争点が二つになつたり、または移つてしまつて運動が自滅していく。

いま、平和連もむずかしい点に立つてゐるように思われる。争点は大学問題と安保、沖縄に大勢が移りつつあるからである。

私は、なおこれから「バトナム」に平和を京都集会」に参加し、声を出しつづけて行くつもりだが、また安保について語らないわけには行かないし、大学問題で動かざるをえない。また現在の大学斗争についても一定の批判がある訳でその批判を運動の形で出してみたい。

それは大学を人民に解放すること、他面から云えば市民が大学に介入することである。最も根柢から向ひかけてかう学生と、市民労働者をむすぶ結節点を作ろう。大学を都市のアゴニに。市民集会所にしよう。我々の作り出す学問の神殿に、全人民は集り討論しよう。そこで暴力と美について話し合おう。

つまり平和連とは別の一争点として、私が去い出した「人民集会」のイメージがあるわけである。（ヤマネコ通信1号より抄出）

神と教会の原理を

否定しよう

T.H

世界中で燃え上り始めた市民的叛乱の中で、われわれもまた川さいなから火の手をあげる。われらは人間の復讐を主張し、人間の自由をおかすもの的一切を否定（DENY）する。

自由で創造的主体であるべき一人ひとりの人間を圧殺し、その塵芥を

傷つけ、生命の原理をひみにじつてきたものは国家権力であり、今日の日本では米日独占とその帝国主義権力機構であるが、その支配と被支配の両側のイデオロギーとして役立ってきた「神」の概念と「教会」は、それ自体人間隷属の原理として否定されなければならない。

バケーニンが指摘したように、たとえ神のもとにすべての人間が平等であつたとしても、それは主人のもとにおける奴隷の平等にすぎず、真の自由が他者との関係の中で求められねばならぬにもかゝらず、常にそれは神との関係に解消され、カニ義化されざるを得ない。これで満足する者はまさに全体主義国家の被支配者の境遇に甘んずる者である。

それはまた支配のイデオロギーとして、あらゆる時代にあらゆる形の王権神授説を成り立たせたものである。予想される社会主義社会においてすら、それが強権的、中央集権的（即ち国家の原理がのこるかぎり）陰のイデオロギーとしてマキャベリスティックに利用されるだろう。そこでも教会は権力に従順な羊を養ひ有るのである。これは教会の本質的体質である。

教会はさらに奇論、良識、常識という暴力をもつて日常不断に人間を窒息させる既成社会の盲目性、守旧性の根柢ともなる。それはすでに思想としての信仰告白の場であることすらやめ、習俗的信仰と迷信の横行する所となり、教祖は神の名、罪の言葉で大衆を服従させ、教会内大衆は自らの人間性を売り渡すだけである。お互いをしばり不自由にしている。イエスのあざかり知らぬことである。……

人間復讐の斗いに立ち上つた人はもはや教会人ではありえない。その自己否定を通して真の自己實現を追求しなければならぬ時代だ。

君の中を起せよ！人間を隷属する神——教会の原理を、国家の原理と共に否定せよ！

宗教的実存は、それとちがった所、主体的創造的人間の「ガイ」の中にこそ尋ねよう。それもわれわれの課題である。否定、そして創造！！

（「デネコ」NO11兵庫県高砂市浜田町27-13さくら荘8号高崎より抄出）

イオム通信は、送料を節約するため本紙の付録？のようつもりで同封していますが、郵政の関係でいそいそと

★不定型 No2

「全共斗」とは我々にとつて何か
(山三木報載)は、全共斗組織の
意味を自由連合の視座から明らかに
した。最近注目すべき形勢。サ
ブタイトル「立命館斗争の経緯」か
ら示されるごとく、立命大に
おける具体的経緯を対象に実証的
に述べられていて説得力をもつ。
その他に「伊藤野枝一考へ堀本吟」
など。京都府左京区浄土寺西田
町一ニ。泉方井上未知夫氏付。
京都アナキズム研究会発行。定価
一五〇円十角。一月一回研究会
日時手知りたいた方は同会向合せを

★麦社発足!

事務所が、東京都豊島区池袋
一五二。田中ビル207号に開設さ
れ、5月30日、6月6日と週例会
が早速ひらかれて、活躍な活動を
すてはじめています。
6月13日午後6時は米国アナキ
コサンジカリスト組合「WW」のレ
ノアール・シエリダン氏の来日を
囲んで討論会。

伝言板

また、仏語講座(毎月
週月6・1・9・12・15・18・21・24・27・30・3
講座(毎週木6・1
9講師篠原泰正)も
はじまる。
出版パンフ「一号は

近藤寛二「私の見た日本アナキズ
ム運動史」定価二五〇円十角、
六月廿日刊行。

★葦穂通信 創刊号

リドイン集会「そこにあるのは
連帯であるのか。肉じに癒着とす
りかえていないか」。いずれの文
章もおもしろい。「思想の科学」
岡山読者の会・(岡山中央局私書
箱一〇九号)

★無頼 No1 No2

「一号」反スターリン主義の原典
「二号」ボリシェヴィズム論」はオ
イルドアナキスト達の論理を、現
代的新鮮な視点から、さらに深く
あきらかにしたものとつづいて
「反宗教としての仏教」1・2は
これから本論にはいるのだらう。
自由社会主義者同盟(大阪)発行。

★漆黒通信 No1

。叛権力。総破壊。自由連合
確平とした叛徒たる自己を高くに
宣言せよ(司俊)。広島県高校アナ
キズム研究会、発行。

★リベルテ 3

東北・北海道の旧自由連合読者な
どが同人の連絡通信誌。手紙がそ
のままのせられて、その個人像とあ
わせて民族的なフレイクをつくり
出している。秋田市将軍野南一〇
一28草階リベルテ社発行

★黒ねこ通信 号外

アナ研春の合宿の報告とその他の
ニュース。信州大アナ研発行

★関西アナキスト討論集

5月25日の討論集会によつて、我
々自身のこれまでの活動と方針に對
する批判、何が行われ、何が行われ
なかつたかを明らかにし、これから
展開されるべき方向といつた問題点
まで、わずかながら巡りつきえたと
思う。各部分の自己総括の共通点と
して表われたものは、オートコレま
でアナキズムの主要な側面としてあ
つたいわゆる直接行動が、多くの場
合、自己を主観的に位置づけたのみ
で、余りにも状況というものの内
連を考察することなしに語られ、行
われてきたのではなかつたか、とい
う反省である。具体的には「関西反
戦青年連合」と「アナキスト行動
戦線」との問題が提出されたが、こ
れらの運動を形つくる契機となつて
いたものは、外的状況につき動かさ
れて直線的に導き出した行動への希
求であり、それが行動主体の明快性
と脆弱性を生んだということ。こ
反戦青年連合」においては、やる
意志を持った者たちが集つた時、
やれるところからやつていこうとい
うことだけが確認されていた。やら
ねばならぬことがある以上それにか
かわつていこうという姿勢。これが
何より強く我々を支えていた。だ
が一つ欠けていたのは、外的状況に
対し主体をどう位置づけていくのか
ということではなかつたらうか。

「反戦連合」において、自由連合の
論理が置かれなかつたのは、ある意
味で自由連合の原則が、各主体を全
肯定してしまふ結果になり、状況に
対する内いかけが為されなかつたた
めであると考ええる。状況に対する内
いかけとは何か、それは自己の論理

が外的状況に對してどう働きかけを
しているかということの向いである。

この点に關して、自己の論理を戦
術工スカレートによつて貫こうと試
みた「行動戦線」も意志が希薄であ
つたと云える。ゆえにこそその斗争
提起は常に受身的なものにならざる
をえなかつたのだ。かかる斗争に對
し、未だ革命斗争の意識をもたない
「反逆」であるという批判は、そのま
ま受けとめぬわけにはいかない。レ
がしそれは斗争方法の故にでなく、
提起した者の主体性の故にである。
これまでの斗争を全否定するのでな
く、それを支えてきた姿勢を否定す
るのである。個々の反逆とはあらゆる
階級において正当なのだ。しかし革
命斗争とは常に主体と状況との相互
作用によつて果されるのである。こ
(5)討論集会神説より抄出(中野哲)

★キャットハウス通信 NO7

ねこのしんぶん。連絡先国分寺市本
多2-8-4井上淳子氏付(グループC
A.T)。労働者・学生・市民の反安保
グループ。今月の標語「サロンベ平
連粉砕!」。型にとられぬ編集
。それほど気負つていず、さりげな
く書いていて、きやめて革命的な勞
働者の思考・女の子のグループの
感じ。自分の言葉でしゃべつてい
る。

★中野哲の遺稿など

中野哲(ギロチン団事件死刑)が
獄中で毛筆で書いた遺稿が平岡誠氏
の手許にあつた。それと禁書押収さ
れて一冊しかのこつていない雑誌「
黒パン」を復刻出版しようという希
望が、左海堂・山口安三その他の
人たちの努力で実現される。その刊
行予定は九月二十三日。大阪で、
その中野や鬼見直三夫妻、木本凡人
大逆事件の武田九平やギロチン団の
人達、久保護、生島繁などの人々の
追憶の会をひらこうということがき
まつた。連絡は、小松龍代まで。

★戦争抵抗者インター3回大会

8月ニューヨークで開催。大会議題
に「日米安保条約の沖繩」を提案し
た結果、その分科会がひらかれるこ
とになった。日米同盟の反戦団体と
個人が具体的に共闘するみちをつく
り出すのが目的である。WR-日本
支部は、そのための英文および約
100通を出し、交流を強めている。

自連自身のための広告

―読者からの手紙など―

★(東京T.G.) 三号で送付打切りとは気が早すぎる。値は只の坊主ではない。

★(埼玉A.Y.) 気のついたことは、まず読み易いこと。字そのものは決してキレイではないが、印刷物としては非常に鮮明にできていて、よんで見ようという意欲をおこさせる奥、高く評価する。

★(奈良Y.K.) ぼくらはこの自由連合紙に触発されて、今、ある集団をはじめます。とりあえずスパイン革命を共に学ぼうという呼びかけで始まったのですが、おわかりました。食うことに汗まみれです。外オになりまして。

★(神奈川M.K.) ガリ刷をうける度に悲壮な感に打たれます。大学の底知れぬ紛争は、いま、真の戦場が波及し爆発した感じ。法と秩序というまじり文句が世はいじめました。人民が法をさばき秩序を焼き直すときです。

★(東京E.I.) わたしは赤食流が如きルンペン・プロレタリアートです。マルクズムからはお呼びでないが、アナルシズムはわたしを呼んでいると信じています。

★(東京I.S.) アナキズムはアナキズムの名も名乗らなくともよいほど現在の日本ではひろがっている。各地の反戦青年季の若い力や平連の自立的市民運動の発展、これらをアナキズムと名づけずしてなにがアナキズムか。私はエス・パラン・スト・ダ・エス・パラン・ト運動の本質をまたアナキズムと考える。

★(長野K.M.) 今まで東京が出していた活版のものより、10倍もこのトリーシャ刷りのほうがおもしろく、いきいきしている。自由に奔放に編集せよ。

★(静岡S.M.) シレンウ・キルナ・カネオクル

★(福岡T.T.) 何れ論文はよい。ルポは必要。運動論、組織論をこれから深めてほしい。三派の決着、市民運動のよりあげ、マルクス主義からの奪取を。

★(兵庫K.Y.) どのくのを楽しみにしている。あちらでもこちらでもこのようなものができて論争がはじまることを期待する。

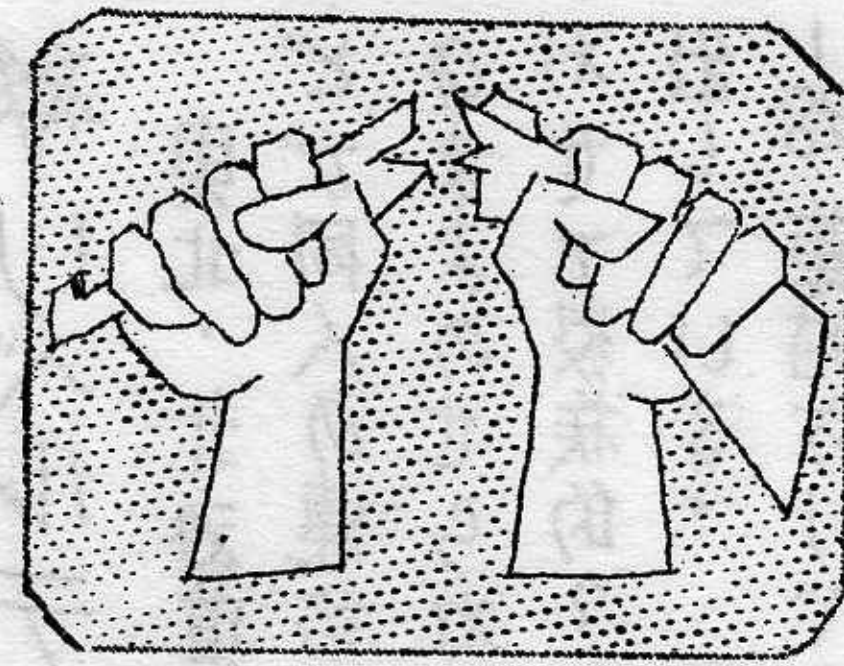
★(東京O.J.) アナキズムと限らずあらゆる思想運動、変革運動が根本的にその倫理的根拠を要求されている時です。ぼくは現在自分をアナキストと呼称できませんが、アナキズムの反権力、反国家思想が他の新左翼運動の基底となることを切望しています。

★(北海道Y.G.) 旧自連と比べて姫路自連の良さは問題にありません。この自連のようなものが関東や北海道でも発行されるのを祈っているのです。イオムは自連に解消したかどうかでしょう。

★(長野S.T.) とにかく読んで面白い。ダイジェスト的まとめもさすがと感心します。内容新鮮。今後共マンネリをさけるようぞむ。

★(大阪Y.Y.) ルポはなんか、平連ニエースの延長のような気がする。自由発言はおもしろいがそつとアナ中心の記事がほしい。

★(京都I.D.) TOP論文は具体的で理解しやすい。ルポはいつも面白い。論文よりとっつきやすいのでいつかここから読みはじめたい。伝言板でミニエミをあげることにしましたので、内容紹介、宛先、領西それから「研究資料」として討論用として読んでみようと思うためのメヤスをお知らせします。



編集室 宛

④ 勝手にアンケートや手紙の一部を抄出してたまる？につかつたこと、

佐いにきてくれたM嬢S嬢にそんなでもらったものの一部。いささか冷汗をかきながら、製版した次。

④ 二頁のルポは「尾関弘」君が送ってきたもの。名をかきおとした。

④ と、続いて今日手紙がきた。それをこめて速報として紹介する。

(任フロレンス(任)) 尾関弘
ロンドン・パリ・ローザンヌ・フロレンスと巡りまわっているところ。スイス・ローザンヌにいたとき、イタリアのアナキストのグループがミラノ・パリス・フロレンス・ローマ・ナポリなどでアメリカ大使館・スペイン大使館・裁判所・軍隊の建物にむかって、せいに被爆活動(爆弾をぶちまけた)ということを知りました。最もはげしかったミラノ・ローマの「人」がスイスへ、三日間まで、このローザンヌのアナキストの図書館にたかいていてスイス警察にたいへんされているというところ。そして六月末にローザンヌ・ミラノ・ジュネーヴ訪問のとき、ジュネーヴのアナキストグループも何らかの決意を決定しているとの観測で、このミラノの少年も、その計画に何らかの関係があるのではないかと、いうわけでスイス警察が取り調べているのです。

イタリアの不穏な状況はフランスにうつるときからその心配がひろがっていました。まもなく帰国するのでもアナキストの本をすこし買いたいところ。そこでローマ・パリス・フロレンス・ローマの本をイタリアに持つていくのは危険だ、と注意されました。それでパリから日本へ郵送した。若干のものをもちつて、ローザンヌを夜行の三時でたつたところ。あべの池、国境で全員下車、手荷物検査がはじまりました。今まで何でも国境をこえたことがなかったのはじめて、ぼくはイタリア語も仏語も全くわからず旅行書類をしてきたので、その書類をさがさされた大ですみました。以前「イオム」につた「イタリアの最近の政治状況」をかけた頃から、イタリアの反体制運動は大きくひろがっています。フロレンスもその例にみれず、約三ヶ月前から、カミローベルネリ(マール・バルネリ)の父「グル」が生まれ、週一回のセミナー・週一回の集会と連日のように活動しています。フロレンスの新しい事務所は、古い集会所、印刷室、図書室、ベッドがある。研究室、商會を料理がでる炊事場、便所があり、連日つめかかってくる大半は去年の暮から運動に入ってきた新しい学生活動家でした。ぼくの突然の出現再会にフロレンスの仲間がびっくり、セミナーのあと、名物の「ピザ」を食しながら、徹夜コンパ。さらに「ピザ」といってブドウ酒を飲むので、ジュネーヴロはいつのまにやら「ギターとウクレレ」を持ち込み、翌朝まで、インターやワルシャワ労働歌、この歌はフランスでもイタリアでも、スペイン革命当時の歌「バリケードより」として知られている。二ヶ国語で合唱しました。何か日本へ帰ったよ、ラな錯覚をもちました。

しかしまた美しい話もありました。神に興味をもつて、ぼくにこくまいた。ジャンニが奥さんと子供をのこして23歳の若さで一ヶ月前自殺したそうです。6月23日フロレンス発、30日着、帰国の予定。それまでこのアナキストの仲間を介する格をしたいと思います。(六月一日記)

④ 自連編集だんだんマンネリ固定化してきた。施接をささなくば批判を、